

C-76 衣服設計に関する研究(第3報) 女子中学生の体幹部の形態について
京都女大家政 ○山名信子 福井弥生 島山綱江 奥村 董
大志万八栄子 岡田節子

目的: 前報と同様の目的をもって、本報では女子中学生の衣服の適合度を高めるために体幹部の形態について多角的に検討を試みた。

方法: 資料は前報と同じものを用い、研究項目69項目のうち乳頭位胸囲、下部胸囲、胸囲、腰囲の周径と各周径位における横径、矢状径、高径である。研究方法は周径4項目の計測部位における周径/矢状径、周径/横径、横断面示数等の年令的变化を考察し、体幹部の横断面形態の様相について検討した。さらに周径各部位の横断面示数を組合せたものや、胸囲-胸囲と腰囲-胸囲の関係、胸部横径-胴部横径と腰部横径-胴部横径の関係等算出値によって体幹部の形態を立体的に把握することを試みた。

結果: 各部位における周径/矢状径の平均値は各年令とも4前後で、周径/横径では3前後を示し、年令間に有意な差は認められない。各周径部位4項目における偏平率の平均値は年令間に変化はなく、胸部における偏平率は約78で、腰部の偏平率は胸部に比べて約10小さい偏平型である。腰部・胴部は加齢とともにやや偏平になる傾向がある。しかし周径と偏平率の相関係数はどの周径部位においても非常に低い。胸囲-胸囲では13・14才間に、胸囲-腰囲では各年令間に優位な有意差が認められ、加齢とともに増大の傾向を示し発育の過程であることを思わせている。胸部横径-胴部横径では各年令間に、腰部横径-胴部横径では13・14才間に優位な有意差が認められた。これらの組合せによる体幹部の形態について検討を試みたが、周径部位間の位置によって形態に相違が生じるので高径を考慮に入れ分類を試みた。